

センサー

1997年 1月号

第30号

東京温度検出端工業会 会報

新年随想

会長 西村 明

新しい年の元旦は穏やかに明けました。まずは会員の皆様と共に、この新しい年を祝いたいと思います。通常新年に当っては、昨年 of 色々な事を思い帰して新しい年の希望を述べるのが恒例となっていますが、昨年はどちらかと云えば悪い事が多く思い帰してもあまり楽しくありません。O-157事件とか官僚の汚職事件ばかりが目立って、戦後初の衆議院の小選挙区制による選挙などは霞んでしまい、年末にはペルーの人質事件が起きて年が明けてもまだ解決をしていません。政治の閉塞状態に対し、経済界の方はいくらかましと云う状況でしたが、之とてもパイが増えた訳ではなく、大企業はリストラにより平均して若干の増益となりましたが中小企業にとっては依然として厳しい年でしたし、住専などの問題を抱え、何とかその場を漕いで来た年と云えましょう。そこで一寸仕事を離れて年末、正月に読んだ本の話でもしたいと思います。

この正月は普段より休みが長くなっています。それで司馬遼太郎の「坂の上の雲」を少々読み直して見ました。歴史小説の巨匠司馬遼太郎が昨年早春に急逝した為か、一時彼の本がブームとなりました。しかしその内でもこの長編は彼の代表作の一つと云えるものでしょう。内容に就ては御存知の方も多いでしょうから簡単に云いますと、秋山兄弟（前半ではそれに正岡子規も主人公の一人でしょう）を中心として明治時代の人々が坂の上の雲を目ざして懸命な努力をする。日清、日露の二大戦役を経て漸く目標の一つに到達すると述べれば良いかと思いますが、作者自身が第1巻の「あとがき」にも書いている通り、この時代の日本及び日本人について書きたいと云う意図は文中に十分に表わされています。それと作者も一寸触れていますが、この後の日本人は型の上では世界の一等国になったものの、今度は慢心して国の方向を誤り、遂に第二次大戦で総てを失うに至るのです。この長編を読みながら最初に読んだ時には気がつかなかった事がありました。と云うのは、この小説の出版された時期を考えたからです。それは昭和44、45年頃で、丁度高度成長期の終りに近い頃でした。それ迄の日本人は丁度「坂の上の雲」の明治時代の様に、欧米に追いつき、追い越せと懸命にな

っていました。そしてこの頃には、追いつくと云う第一目標はほぼ達成し、更に追い越すと云う目標も見えて来て、前途はバラ色の様に思われたものです。処が実際には、この後数年で第一次のオイルショックが起き、成長の限界を知らされると共に、その後も続けてのオイルショックや好況と云っても実体のないバブル景気が続き、バブルが終ると長期の平成不況が続いて現在に至っているのを思うと、同一ではないとしても歴史は繰り返すとの言葉の通りになっている様であり、我々も一つの教訓とすべきではないでしょうか。

次に年末に読んだ一編に就て申し上げます。

年が明けてからは「坂の上の雲」を読み直していますがまだ終了はしていません。実は年末にフレデリック・フォーサイスの「イコン」と云う長編小説を求めて、休みに読む積りの処、年末迄に読み終ってしまったのです。フォーサイスの作品の例に違わずスパイが活躍をするのですが、この小説ではロシヤの近未来を想像している処が面白いと思いました。

エリツインが心臓病で死亡し、(現職の大統領を殺してしまうのですから、随分思い切ったスタートだと感じました) その後ロシヤは超インフレに苦しんでいる内で大統領選挙が行われる事になります。それに対して超右翼のカリスマ的な候補者が最有力となります。しかし彼は、表向きは大衆の為に新しい政治をすると云っていますが、権力を握ったらヒットラーやスターリン以上の権力による恐怖政治を夢見ている。たまたまこの将来構想を書いた秘密文書が流出し、これを見てイギリスの諜報機関が動き出し、ロシヤの軍と宗教界に働きかけてこの構想を阻止すると云う筋で、それではロシヤの新しい政体はどうなるかを見ると、何と帝政の復活と云う思いがけない方向を示唆しています。そんな事で大国ロシヤの恢復が出来るだろうかと疑問も浮かびますが、さて翻って今年の我国はどうなるだろうかと考えさせられます。

今年に就ての各界識者の予想を見ますと、例年にくらべて悲観的な見通しが多い様ですし、中にはこのままでは日本は破滅に向って進んでいると極論をする人もいます。主な論調としては、昨年は減税と公共投資(私は公共投資の経済効果には疑問を持っていますが)により辛うじて2%程度の経済成長がされたが、今年は増税があり、公共投資は無いとすれば、殆んど成長は望めない。更に長期的に見ると、今にして行財政改革をやらなければこの国の未来は無い。しかし現在の政治の状態を見れば、この様な改革は不可能であり、前途に希望は見出せないとの事です。唯、私は日本人はそんなに馬鹿では無いと信じています。確かに日本人はギリギリの処まで来ないと改革的行動は起きない。だが、一旦行動を起した後の行動力は過去明治維新とか、終戦後の一時代に発揮されています。私は今年あたりが、将来ふり返った時に、行政改革、財政再建の最初の年になるのではないかと希望も含めて願っています。もしそうであれば、我々としても前途に希望の持てる年になるでしょう。皆様方の努力の報われる年である事を期待しております。

会の動き

- ◎平成8年2月3日 新春懇親会
池袋「海鮮問屋」において 参加者 35名。
- ◎平成8年2月3日 理事会
講演会を3月19日に開催することを決定。
- ◎平成8年3月19日 講演会
「PL法の事例研究」
講師 日本火災海上保険(株) 渡辺謙治氏 参加者 24名。
- ◎平成8年4月17日 理事会
総会に提案する平成7年度事業報告、会計報告を承認。
「けんたん会」を5月17日に行うこと。定時総会を6月6日に開くことを決定。
6月21日に技術懇談会を行うことを決定。
- ◎平成8年5月17日 第33回「けんたん会」
久邇カントリークラブにおいて 参加者 8名。
優勝は大手金属(株) 渡辺精悦氏
平均スコア 100.5
- ◎平成8年6月6日 定時総会
東海倶楽部において、平成7年度事業報告、会計報告および平成8年度事業計画を提案し、承認された。
ひきつづき懇親会を行う。参加者 32名。
- ◎平成8年6月6日 理事会
ローズマウントエアロスペース日本事務所より、入会希望の意志表示があり入会を承認した。
- ◎平成8年6月19日 技術懇談会
大田区産業プラザの見学を兼ねて開催した。
中国および台湾の温度標準に関する調査報告。
山里産業(株) 水真陽一氏
仮想計測技術を用いた熱電対自動校正装置について
工技センター 尾出 順氏
- ◎平成8年9月5日 理事会
秋の行事について討議した。
講演会は10月に、玉川大学 後藤昌彦教授に依頼する。
11月6日に第34回「けんたん会」を行うこと。
11月中に工場見学会を行うことを決定した。
- ◎平成8年10月30日 技術講演会
演題 金・白金熱電対と最近の温度計測の国際動向
講師 玉川大学工学部教授 後藤昌彦氏 参加者 25名。

- ◎平成8年11月6日 第34回「けんたん会」
場所 習志野カントリークラブにおいて 参加者 11名。
優勝 大手金属㈱ 加藤 誠氏
平均スコア 100.1 惜しくも100を切れませんでした。
- ◎平成8年11月26日 工場見学会
資生堂 鎌倉工場、東陶機器㈱ 茅ヶ崎工場。
参加者 26名。
- ◎平成8年11月29日 技術懇談会
白金抵抗素子の環境試験について
林電工㈱ 池上宏一氏
白金抵抗温度計とR熱電対の比較校正の精度評価試験
田中貴金属工業㈱ 寿山幸晴氏
測温抵抗体 JIS改正について
都立工技センター 尾出 順氏

講演に先だち、来年度に都立工業技術センターはアイソトープ研究所と統合されて、産業技術研究所という名称に変更されるという説明がありました。組織が変わっても、業務に大きな変化はなく、我々がもっともお世話になっております検定業務については、さらに充実させるため、予算請求を出されているということでした。

平成8年11月26日 工場見学会報告

石福金属興業株式会社 山本比呂志

今回、初めて東京温度検出端工業会の工場見学会に、出席させていただきました。

考えるに、営業になって10年以上の年月がたちますが、製造ラインに添って工場を見学した事はほとんど無く、今回は貴重な体験が出来ました。

早速、午前の訪問先(株)資生堂鎌倉工場からご報告致します。ここでは、口紅を始め資生堂ブランド3,000種の内、約30%の1,000種類を製造されているとの話でした。プロモーションビデオを拝見後、工場見学となりましたが、まず気がついたのは、場内がとてもきれいで清潔な事です。御世辞にも新しい建物とは言えませんが(ちょっと失礼)清掃が行き届いており、通路に物が何もなく、5Sが徹底されている感じを受けました。又、設備の面では、25年も前から排水処理施設を設置しているとの事。鎌倉という場所柄か、環境への対策も真剣に取り組まれている様です。そんな中、一番印象に残っているのはバスケット・テニスの各コート、極めつけは裸足で歩く遊歩道等の厚生施設でした。さすが上場企業といった処でしょうか。

いつもこの手の施設を見ると、健康は自分の為・会社の為・万人の願いだなどと思い、多少出てきた我が腹に「喝」を入れつつ、資生堂を後に致しました。(毎度の事ながら、いつもその場で忘れてしまう為、未だ成長中です。)

鎌倉シネマワールドでの昼食後、東陶機器(株)茅ヶ崎工場へ訪問致しました。当工場は、商品研究所を含む量産工場で、衛生陶器の他、水栓金具やニューセラミックスを製造されているとの工場長の説明を受け、いざ見学へ。

工場見学コースは、衛生陶器の製造ラインで材料調合から成形・乾燥・施釉、そして全長120mのトンネル窯による焼成まで、一連して見学させていただきました。驚いたのは、中間検査の多さです。各工程毎に検査があり、最終検査では模擬汚物を実際に流し、製品ひとつひとつを手に取り、全量検査という念の入れ様。この姿勢が業界トップの所以なのでしょうか。おみそれ致しました。又、今年話題になりました、病原性大腸菌O-157等の抗菌機器や高齢者用昇降便座等、普段気にせず使用しているトイレにも、まだまだ改良・改善が必要なんだと納得させられました。

以上、乱文ですがご報告させていただきます。

末筆ながら幹事様、関係者の皆様にこの場をお借りして、お礼を申し上げます。

電気計測器 生産

(金額：百万円，前年比：前年同期比増減率%)

(出所：通産省生産動態統計)

生産	電気測定器				工業計器															
	信号発生器・発振器				測定用記録計・データ処理装置				その他の電気測定器		発信器					液位計				
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	金額	前年比	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	
95(H7)暦年	21,323	7,123	-6.0	64,163	18,984	13.9	50,782	3.9	282,700	8.5	344,130	8,633	9.8	77,200	10,274	-6.4	26,141	6,171	3.1	
95(H7)年度	18,909	6,785	-18.8	63,457	19,192	6.8	51,455	5.0	286,854	8.8	330,990	8,572	8.7	82,875	10,938	5.4	26,882	6,985	21.2	
95/7~9	5,506	1,536	-22.9	16,073	4,735	9.2	12,933	8.2	68,977	7.0	87,964	2,284	10.2	20,025	2,635	-7.1	7,041	1,607	10.4	
95/10~12	3,684	1,409	-26.7	15,090	4,255	4.5	12,185	7.6	70,407	16.2	80,585	2,202	15.2	21,474	2,680	-3.1	7,387	1,863	22.0	
96/1~3	5,153	2,577	-11.6	17,863	5,734	3.8	14,254	5.0	83,721	5.2	78,861	2,012	-2.9	23,048	3,051	27.8	7,536	2,394	51.5	
96/4~6	4,105	1,570	24.3	14,244	3,982	-10.9	13,353	10.5	68,842	8.0	106,714	2,312	11.4	22,269	2,897	12.6	6,684	1,596	42.1	
96/6	1,348	452	12.2	5,103	1,293	-25.9	4,927	13.8	20,150	-12.1	40,465	738	2.2	7,568	947	15.5	2,397	451	5.6	
96/7	1,381	1,092	113.3	5,389	1,633	4.7	4,310	6.3	20,980	3.0	37,496	922	16.3	8,363	1,237	48.5	2,339	435	-0.2	
96/8	1,086	739	77.2	4,912	1,462	-1.1	4,370	-4.5	22,954	19.2	38,388	792	11.5	7,211	893	7.2	2,321	489	-0.2	
96/1~96/8	11,725	5,978	17.1	42,408	12,811	-1.7	36,287	5.8	196,497	7.4	261,459	6,038	6.8	60,891	8,078	21.9	18,880	4,914	35.4	
96/4~96/8	6,572	3,401	55.2	24,545	7,077	-5.7	22,033	6.4	112,776	9.1	182,598	4,026	12.5	37,843	5,027	18.6	11,344	2,520	23.0	

生産	工業計器				指示記録計													
	発信器		差圧計		その他の諸量計		温度計					調節計					補助機器	
	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比	数量	金額	前年比
95(H7)暦年	80,466	17,348	14.3	59,753	10,707	-20.5	12,600	27.7	146,700	16,406	12.5	405,806	13,933	0.3	279,511	7,946	3.9	
95(H7)年度	78,579	17,175	7.8	61,894	10,444	-20.6	12,485	15.1	146,039	16,129	6.1	424,374	13,954	-1.2	285,641	7,942	4.1	
95/7~9	20,312	4,027	2.7	16,916	2,771	-19.5	3,228	7.4	40,891	3,998	10.2	95,742	3,352	-5.5	69,744	1,906	-1.3	
95/10~12	18,969	3,951	21.8	14,014	2,360	-28.2	2,816	19.8	33,895	4,017	7.8	118,805	3,353	1.8	71,569	1,898	7.7	
96/1~3	20,607	5,478	-3.1	17,211	3,006	-8.0	3,150	-3.2	38,047	4,282	-6.1	109,812	3,874	0.5	77,024	2,304	-0.2	
96/4~6	16,698	3,737	0.5	15,738	2,708	17.4	3,326	0.8	33,789	3,825	-0.3	100,630	3,585	6.3	69,952	1,889	3.1	
96/6	6,305	1,178	-1.8	5,592	953	13.9	1,188	13.3	11,440	1,204	-1.0	35,278	1,277	12.9	23,192	602	-2.3	
96/7	5,358	1,300	2.6	6,780	1,206	50.9	1,151	8.3	11,206	1,284	-3.2	34,663	1,258	17.5	23,521	626	-0.6	
96/8	4,866	1,199	6.6	5,226	934	19.9	1,108	19.4	10,686	1,184	-2.0	29,450	1,153	10.4	23,286	570	1.1	
96/1~96/8	47,529	11,714	-0.4	44,955	7,854	9.8	8,735	2.2	93,728	10,575	-3.3	274,555	9,870	5.7	193,783	5,389	1.0	
96/4~96/8	26,922	6,236	2.1	27,744	4,848	24.8	5,585	5.5	55,681	6,293	-1.2	164,743	5,996	9.2	116,759	3,085	1.9	

編集後記

毎年、年末にこの稿を書いております。我々にとってこの1年はどんな年だったのでしょうか。政府の景気動向に関する発表は、このところいつも景気は徐々に上向いてきているというものはたしてそうなのでしょうか。業界にもよるのでしょうか、どうも少し違うのではないか、という気がしてなりません。

年の始めに、半導体メモリーの生産過剰による値崩れに端を発した半導体製造設備の投資抑制は、夏以後深刻さを増し、機種によっては半分以下に落ち込んでいるのが実情のようです。ここ数年空洞化が進むなかで、唯一設備投資をリードしてきた裾野の広い業界だけに、今後の動向に関心を持たざるを得ません。

一方、この年末にきて海外で注目すべき事件がおこりました。ひとつはペルーの大使公邸占拠事件であり、もうひとつは労使交渉のもつれから放火事件にまでなってしまった、バンコクの三洋電機の事件です。この二つの事件の性質は違うとは思いますが、いずれにしても大きな枠内では海外進出のむずかしさを示しているように思います。特に後者はブームのように生産拠点を海外に移し、結果として国内の空洞化をもたらしてきた一連の流れに対して、何がしかの示唆を与えているように思うのですが。

平成9年1月発行 No.30

発行所 **東京温度検出端工業会**

事務局

東京都文京区本駒込6-5-5 (林電工株式会社)

電話 3945-3151